

講義録レポート

講 座	証券アナリスト	科目①	証券分析とポートフォリオ・マネジメント
目標年	2011年合格目標	科目②	
コース	2次 公開模試	回 数	1 回

収録日	2011 年 3 月 25 日		
講師名	鈴木 先生	講義録 枚数	17 枚 ※レポート 含まず
		補助資料 枚数	1 枚 (サイズ ー)

講義構成	講義 (58) 分 講義 (37) 分		
使用教材	①		
	②		
	③		
	④		
配布物	有 無		
	①		
	②		
正誤表	有 無	枚	
備考			

T A C証券アナリスト講座

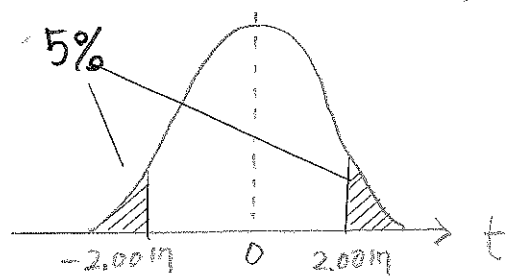
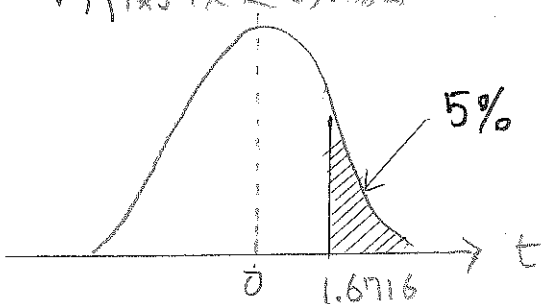
証券アナリスト講義録		科目 証券分析	コース 2次対策 公開模試	回数 1
------------	--	------------	---------------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり [] ★実力テスト：あり [] ◇配布物なし	なし なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 鈴木 先生
-----	--	----------	--------------------------------------	-------------

テキスト ページ	黒板 内 容
	公開模試(解説) 証券分析とポートフォリオ・マネジメント 第I時限 第2問 債券ポートフォリオ戦略 ◎問1・2 イールドカーブの予想と債券投資のリターン 問3 ◎ (1) デュレーション・コンベクシティによる価格変化率の計算 ◎ (2) バーベル ブレット戦略 問4 コーラブル債 ◎ (1) ノンコーラブル債とのデュレーションの比較 債券価格の金利感応度 平均回収年数 △ (2) 繰上償還の可能性に影響する要因 △ (3) OAS

証券アナリスト講義録	科目 証券分析	コース 2次対策 公開模試	回数 1
------------	------------	---------------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 鈴木 先生
-----	--	--------------------------------------	-------------

テキスト ページ	黒板 内 容												
	第3問 株式ポートフォリオ戦略 + パフォーマンス評価 ①問1 リターンデータの期間調整 (1)(2) 各期のリターンが<u>独立</u>同一分布 (3) 各期のリターン間に<u>相関</u>がある場合 ○問2.3 仮説検定 (t検定) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>問2 (平均値の仮説検定)</th> <th>問3 (回帰係数の仮説検定)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仮説</td> <td> $\begin{cases} H_0: R_A - R_{TOPIX} = 0 \\ H_1: R_A - R_{TOPIX} \neq 0 \end{cases}$ </td> <td> $\begin{cases} H_0: \alpha = 0 & H_0: \beta = 1 \\ H_1: \alpha \neq 0 & H_1: \beta \neq 1 \end{cases}$ </td> </tr> <tr> <td>t統計量</td> <td> $t = \frac{\text{標本平均} - \text{仮説値}}{\frac{\text{標本標準偏差}}{\sqrt{\text{サンプル数}}}}$ </td> <td> $t = \frac{\text{推定値} - \text{仮説値}}{\text{標準誤差}}$ </td> </tr> <tr> <td>(自由度)</td> <td>(サンプル数 - 1)</td> <td>(サンプル数 - 説明変数の個数 - 1)</td> </tr> </tbody> </table> ・両側検定の場合 (自由度 58)  ・片側検定の場合 		問2 (平均値の仮説検定)	問3 (回帰係数の仮説検定)	仮説	$\begin{cases} H_0: R_A - R_{TOPIX} = 0 \\ H_1: R_A - R_{TOPIX} \neq 0 \end{cases}$	$\begin{cases} H_0: \alpha = 0 & H_0: \beta = 1 \\ H_1: \alpha \neq 0 & H_1: \beta \neq 1 \end{cases}$	t統計量	$t = \frac{\text{標本平均} - \text{仮説値}}{\frac{\text{標本標準偏差}}{\sqrt{\text{サンプル数}}}}$	$t = \frac{\text{推定値} - \text{仮説値}}{\text{標準誤差}}$	(自由度)	(サンプル数 - 1)	(サンプル数 - 説明変数の個数 - 1)
	問2 (平均値の仮説検定)	問3 (回帰係数の仮説検定)											
仮説	$\begin{cases} H_0: R_A - R_{TOPIX} = 0 \\ H_1: R_A - R_{TOPIX} \neq 0 \end{cases}$	$\begin{cases} H_0: \alpha = 0 & H_0: \beta = 1 \\ H_1: \alpha \neq 0 & H_1: \beta \neq 1 \end{cases}$											
t統計量	$t = \frac{\text{標本平均} - \text{仮説値}}{\frac{\text{標本標準偏差}}{\sqrt{\text{サンプル数}}}}$	$t = \frac{\text{推定値} - \text{仮説値}}{\text{標準誤差}}$											
(自由度)	(サンプル数 - 1)	(サンプル数 - 説明変数の個数 - 1)											

証券アナリスト講義録	科目 証券分析	コース 2次対策 公開模試	回数 1
------------	------------	---------------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 鈴木 先生
-----	--	--------------------------------------	-------------

テキスト ページ	黒板 内容
第4問 △問1 ◎問2 ◎問3 ○問4	オルタナティブ投資 ヘッジ・ファンド・インデックスの問題点 シャープ・レシオ オルタナティブ投資のメリット ヘッジファンド・リターンの特徴…歪度・尖度
第5問 ◎問1 ◎問2	デリバティブ 先物理論価格 フット・コール・パリティを用いた裁定取引 $C = P + S - PV(K) \quad \text{フット・コール・パリティ}$ $76 > 46 + 1,000 - \frac{1,000}{1 + 0.02 \times \frac{6}{12}}$ 55.90
△問3 問4	オプションポジションの構築 先物を用いたダイナミック・ヘッジ $\text{デルタ・ニュートラル・ポジションの構築}$

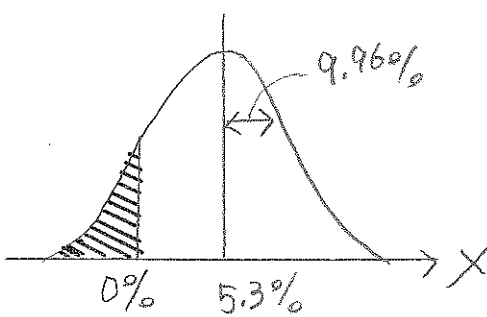
証券アナリスト講義録		科目 証券分析	コース 2次対策 公開模試	回数 1
------------	--	------------	---------------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり [] ★実力テスト：あり [] ◇配布物なし	なし なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 鈴木 先生
-----	--	----------	--------------------------------------	-------------

テキスト ページ	黒 板 内 容
	第6問 信用リスクモデル ○ 問1 リスク中立確率等の計算 ◎ 問2 社債をオプション・ポジションとして見る ○ 問3 BS 公式とリスク中立デフォルト確率 満期に $N(-d_2)$ ----- プットがITMになる確率 " $1 - N(d_2)$ コールがOTMになる確率

証券アナリスト 講義録		科目 証券分析	コース 2次対策 公開模試	回数 /
-------------	--	------------	---------------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり [] ★実力テスト：あり [] ◇配布物なし	なし なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 鈴木 先生
-----	--	----------	--------------------------------------	-------------

テキスト ページ	黒板内容
	第Ⅱ時限 第16問 アセット・アロケーション △問1 責任準備金（計算） △問2 ベルディング・ブロック方式 ○問3 最適アロケーションの決定 ◎問4 ポートフォリオのリターン・リスクの計算 問5・6 正規分布 ◎問5 ショートフォール確率  標準化 $Z = \frac{0\% - 5.3\%}{9.96\%} \approx -0.53$ ・標準正規分布表の読取 $\rightarrow 0.7019$ ・求める確率 $= 1 - 0.7019 = 0.2981$ ○問6 VaR △問7 CPP I $m > 1$ のとき凸型

証券アナリスト 講義録		科目 証券分析	コース 2次対策 公開模試	回数 /
-------------	--	------------	---------------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり []	なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説	講師 鈴木 先生
	★実力テスト：あり []	なし	★その他のレジュメ []	
	◇配布物なし			

テキスト ページ	黒 板 内 容
	第7問 株式ポートフォリオ戦略
	◎問 1・2 マルチファクター・モデル ファーマ=フレンクの3ファクターモデル マクロ・ファクター・モデル ファンダメンタル・ファクター・モデル
	問 2 パッシブ運用 完全法 / 層化抽出法 / <u>最適化法</u>
	◎問 3・4 スタイル・マネジメント

証券アナリスト 講義録	科目 証券分析	コース 2次対策 公開模試	回数 /
-------------	------------	---------------------	---------

配布物 ★ミニテスト：あり [] ★実力テスト：あり [] ◇配布物なし	なし なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 鈴木 先生
---	----------	--------------------------------------	-------------

テキスト ページ	黒 板 内 容
	第8問 国際証券投資 問1 カバー付金利パリティ ◎ (1) 為替先渡の理論価格(計算) △ (2) 為替先渡の複製 問2 外国証券投資のリターン (為替ヘッジの有無等による違い) ◎ (1) 米ハイールド債(為替ヘッジなし) $(i_{USD} + RP_{US}) + Y_{JPY/USD}$ ◎ (2) 米ハイールド債(為替ヘッジあり) $(i_{USD} + RP_{US}) + (i_{JPY} - i_{USD})$ $= i_{JPY} + RP_{US}$ 問3 カバーなし金利パリティ ◎ (1) 成立... 為替ヘッジの有無に関わらず、期待リターンは同じ △ (2) 不成立 高金利通貨はヘッジしない方が (フォワード・プレミアムのバイアス) 期待リターンは高い